

廃棄物をふたたび「資源」へ 循環利用システムの構築

- リサイクルセンターの運営 ●オフィスにおける取り組み
- 生活サービス分野の取り組み ●水資源の有効活用
- お客さまと取り組む環境負荷軽減 ●乗車券類のリデュースとリサイクル
- グリーン調達推進 ●駅のゴミを社内で循環利用

鉄道事業と生活サービス事業から出る多様な廃棄物を削減するために、発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)を進めています。

廃棄物減量とリサイクル

廃棄物の種類ごとにリサイクル目標を設定

列車や駅から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業の飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物など、JR東日本グループが2007年度に排出した廃棄物は65万トン。このうち79%をリユース・リサイクルしました。

なかでも排出割合の高い設備工事の内容が毎年大きく変動するため、廃棄物の種類ごとにリサイクル率の達成目標を定めて取り組んでいます。

一般廃棄物は、JR東日本グループ全体で2008年度までにリサイクル率を43%とする目標を定めており、2007年度は48%となりました。

●駅・列車からのゴミ回収と再生

駅や列車から排出されたゴミは2007年度が4.4万トンで、これは11万人が1年間に一般家庭で排出する量に相当します。そのなかには新聞や雑誌、空き缶などの資源ゴミも含まれているため、分別を徹底し、再び資源として利用できるよう、駅に分別ゴミ箱を設置するほか、首都圏では収集後の分別を徹底して行うリサイクルセンターを設けています。2008年度までにリサイクル率を45%とする目標に対し、2007年度は64%となり、引き続き目標を達成しました。なお2007年度より、サーマルリサイクルを考慮しています。

●総合車両センターなどでのリサイクル

車両の製造時やメンテナンス時に発生する廃棄物のリサイクルにも取り組んでいます。

通勤・近郊型電車を製造する新津車両製作所では、車両設計時からライフサイクル全体を考慮するなどの対応を進めています。また車両の整備や修繕を行う各地の総合車両センターでは、廃棄物を20~30種類に分別してから専門の回収業者に送るなど、分別の徹底によって廃棄物の減量とリサイクルをはかっています。なお2005年度からは、廃車車両のうち外部に売却した



長野総合車両センター。廃車輪をブレーキディスクの部品にリサイクルしています

うで解体される車両についても、把握の対象として拡大し、取り組みを強化しています。

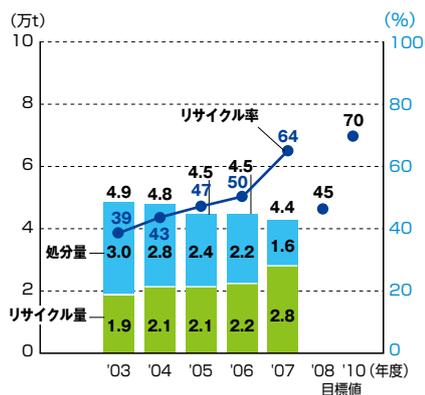
●設備工事における廃棄物削減

廃棄物処理法上は工事の請負会社が排出事業者になりますが、JR東日本も発注者として、仕様書などを通じ、建設副産物の適正処理や、廃棄物を抑制する設計・工法を規定し、廃棄物削減に向けた努力をしています。駅や構造物の建設やメンテナンスによる設備工事では、外部からの受託工事*1による8.5万トンを含め、2007年度には40.7万トンの廃棄物が発生しました。

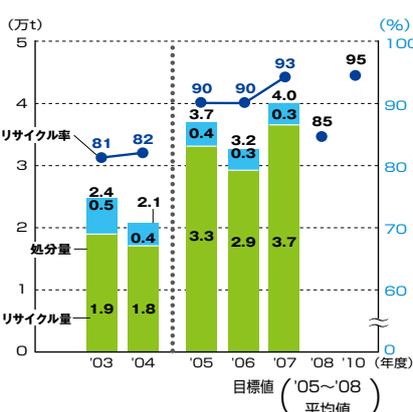
*1 受託工事

列車の安全運行の確保などのために、JR東日本が自治体などから委託を受けて行う社外施設の工事。

■駅・列車からのゴミの推移



■総合車両センター等からの廃棄物の推移



■設備工事からの廃棄物の推移

